

ACG035-06

会場:201A

時間:5月27日 12:00-12:15

港湾等の強閉鎖性海域の貧酸素水塊の動態 Movement of hypoxia in strongly enclosed waters of ports and harbor

藤井 智康^{1*}, 駒井幸雄², 藤原建紀³
Tomoyasu Fujii^{1*}, Yukio KOMAI², Tateki FUJIWARA³

¹ 奈良教育大学, ² 大阪工業大学, ³ 京都大学大学院

¹Nara University of Education, ²Osaka Institute of Technology, ³Kyoto University

大阪湾奥部の港湾内海域は市民にとっての親水空間である一方で、このような水域では底層に貧酸素・無酸素水塊が形成されやすい。また、ときには底層の貧酸素水塊が、風の吹き寄せなどの影響により海面まで湧昇し、青潮となる。この青潮は、魚介類の大量斃死を起こすとともに、沿岸の住宅地に悪臭を放つことも知られている。貧酸素化は他の内湾でも起きており、貧酸素化対策は内湾の環境再生に共通する主要な課題となっている。藤井ほか(2010)によれば、底層の貧酸素水塊中には高濃度のCO₂が蓄積されていることが示されており、貧酸素化が問題となる沿岸域がCO₂の吸収源か、放出源かを明らかにすることは、沿岸の環境保全や貧酸素化対策にとって重要である。本研究は、強閉鎖性海域の貧酸素水塊の季節的・場所的な違い、躍層の変動および、CO₂の吸収・放出について明らかにすることを目的として行った。

キーワード: 強閉鎖性海域, 貧酸素水塊, 二酸化炭素, 風の吹送, 湧昇

Keywords: strongly enclosed waters, hypoxic water mass, carbon dioxide, wind drift, upwelling